



白沢町を代表する詩人おのちゆうこうの「望郷」の思いを詩や作文に表現する「おのちゆうこう文学賞」、吹割溪谷や沼田の風物詩を詠む「ふきわれ俳句大会」が毎年行われ、地域に根付いた取り組みとして受け継がれています。

自ら語ることのない石ですが、文学を通して情熱や郷里を思う心などが刻まれています。移りゆく時代にあっても、沼田の自然と風土とともに色あせることなく生き続け、私たちの心をなごませ温かさを添えていく文学碑の姿を感じてください。

# 今も生きる文学碑

